

週報

【2022/4 第3例会】

例会日: 毎週金曜日
 例会場: 碧海信信用金庫本店3F
 安城市御幸本町15-1
 TEL: 0566-75-8866
 FAX: 0566-74-5678
 Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp
 HP: <http://www.anjo-rc.org>

第3097回例会 夜間例会

2022年4月15日(金) 18:30~19:30
 司会者: 野田 敏男君 ソング:「それでこそロータリー」
 ニコボックス委員会: 深津 吉彦君
 雑誌委員会: 稲垣 礼子さん

2021-22年度: RIテーマ
 「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」
 安城ロータリークラブ会長方針:
 「アットホーム ロータリー! ~奉仕を通してロータリーを楽しもう~」

- 会長: 石川 義典
- 幹事: 辻 隆士
- クラブ会報: 山口雄史・兵藤幸男・竹内通裕
- 創立日: S33年1月10日
- RI加盟認証日: S33年2月6日



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

■ 会長挨拶

石川 義典会長

- * 4/15(金)第1回戦略委員会開催
- * 第10回理事会開催
- 【本日のセレモニー】
- * ロータリーの友

- 🌸 今月のお祝い
- 会員誕生日 5名
- 婦人誕生日 3名
- 結婚記念日 6組

■ 出席報告

沓名 一樹君

会員	54名
出席義務者	43名
出席	39名
欠席	12名
出席免除者の出席	
出席率	78.50%

■ 幹事報告

辻 隆士幹事

1. 4/17(日)地区研修協議会です。本日名札を配布いたします。お休みの方は当日受け取ってください。11:10金山グランコート側のタクシー乗り場に集合し、乗り合わせにて会場に向かいます、当日何かありましたら大坪久乃さんに連絡をお願いします。
2. 4/22(金)11:00~ガバナー準備会議(昼食準備あり)を大会議室にて行います。
3. 4/23(土)WFF移動例会を12:00~エディオン久屋広場にて行います。配布の資料を確認いただき、集合時間にはお越しください。
4. 4/29法定休日により休会、5/6定款により休会となります。
5. 5/13(金)11:30~次年度理事会、例会終了後理事会、18:00~鯛常分店にてファイヤーサイドミーティングを行います。
6. 今年度例会のZOOM配信は継続いたします。欠席報告をされています方はZOOMにて出席ください。

◆ 卓話

担当: 横山 真喜男君

テーマ 「僕の趣味」

さて、僕の趣味を話せと会長からの指示でありますので僕の趣味について話させていただけます。ところで趣味とは何ぞやあ? 辞書を紐解きますと楽しみとして愛好する事柄とあります。その言葉通り人生67年間の楽しみはたくさんあります。この場所では口に出して言えないこともあります。ということで当たり障りのない僕の趣味を思いつまままにお話します。

少し気取って「読書」。小学生の時に両親が世界少年少女文学全集という本を通信販売で毎月1冊届くように買ってくれておりました。小公子、小公女、車輪の下とか読みました。毎月本が届くのが楽しみで姉に早く読めとせかしたものです。姉は安城高校で大嶽さんと同学年で自分の事を安高の吉永小百合だったと言っておりましたが大嶽さんに聞いてみても知らないと言われました。大嶽さんは背が高く髪もふさふさでテニスをやっていた貴公子のようだったと姉はいつお



りました。話を戻しますと姉が読み終わると僕の順番が来ます。おもしろい話だと読み切るまで徹夜してでも読んでいたことを思い出します。そんなことで本を読むことが好きになり、中学生ぐらいから推理小説を読むようになりました。アガサクリスティ、エドガー・アラン・ポー、エラリークウィーン、松本清張、江戸川乱歩などなど読みました。高校へ入りますと推理小説は夢中になると勉強に支障が出るほど根を詰めますので少し離れておりました。

大学生になったときに犬神家の一族やら獄門島、金田一耕助が流行しだしたのか読み始めました。角川文庫の横溝正史を全部読みました。ある作家のある出版社の文庫本を全部読むのが僕のやり方でその間は他の作家の本はほとんど読みません。横溝正史の次は、母さん僕あの麦わら帽子・・の森村誠一でした。次は赤かぶ検事の和久俊三、そして先日亡くなられた西村京太郎です。西村京太郎はどんどん新しい本が出てくるので全部は読んでおりません。本を買うときは作家名の同じ色の背表紙の文庫本のところを探すのですが前に読んだのかどうか分からずに同じ本をよく買うことがあります。中を少し読むのですがそれでも同じ本を買ってしまうことがあります。覚えていないのでしょうか。半分ぐらいまで読んでようやく読んだことがあるとわかるものもありました。今は東野圭吾を呼んでいます。東野を読み始めたきっかけは背表紙の色です。あるとき店員が間違えたのかお客が帰す位置を間違えたのか西村京太郎の塊の中に東野圭吾の本が紛れていて買ってしまい読みだしました。読み始めたら西村京太郎と少し文体が違うなあと思いながら読んでいました。途中で気が付いてなかなか面白いと思い今は読み漁っております。

読書はこれぐらいにして次の趣味「パズル」。数独、ナンバープレースにはまっております。電車に乗るときとか回転ずしへ行くときは、あとロータリーの地区大会や地区研修協議会へ行くときなどは推理小説かナンプレを必ず持っていきます。ナンプレは時間つぶしに持って来いで、本屋で252問ぐらい、500円ぐらいの雑誌を買ってやっています。超難解レベルのものを買います。1問解くのに100~180分だとかいうやつです。もう20年近くやっております。解けない問題が一瞬の閃きで解けたときは気分爽快です。こちらは推理小説と違って寝る前にやると数分で眠ってしまいます。だから一冊全てを解くのに1年ぐらいかかってしまいます。

話は変わりますが1から9までの数字4つを使って加減乗除で10にする。そんな遊びもたまにします。渋滞の高速道路で隣や前の車のナンバーでやります。1, 2, 3, 4なら全部足せば10。2と3を掛けて4を足し1でかけるなり割るなりすれば10になります。5が4つなら5と5を足して5割る5の1で掛けるなり割るなりすれば10です。

さてここで問題です。1と1と9と9の4つの数字を加減乗除で10にして下さい。次回例会までに解けた人は先着3名様までにプレゼントをあげます。

話をナンプレにもどしますと、ナンプレはそこそこはやっていまして中日新聞のサンデー版や日経の土曜日の付録プラス1にも載っています。ロータリーの友にもたまに乘ります。やり始めたころはミスをするボールペンでは修正がきかないので鉛筆、シャープペンシルでやっておりましたが現在では、退路を断って真剣勝負！！ボールペンでやっております。ナンプレも色々なテクニックがありそれを覚えると難問にもチャレンジできるようになります。新聞に載っているナンプレは難問と書いてあっても難問じゃありません。推理小説もパズルもそうですが解くとか解答を出すことが好きなのだと思います。高校時代までは数学が得意でした。正解にたどり着いた時の快感が好きなのですね。全国で1番になったこともあります。1番という格好いいですがようは100点満点を取ったというだけです。高校3年生の時に教師が急に都合が悪くなり自習になりましたとかプリントを配布されこの問題を解いておこうにと指示があり、やりました。やっていくうちに設問のミスを発見しこのままではこの問題は解けないと思い、全国一の横山はクラス全員にこの問題は間違っていると伝え、問題を修正してしまいました。全国一の横山の言うことだから間違えはないだろうとクラス全員が僕のいうことに従いました。これが何早とちりしたのか僕のミスで担任に度叱られました。当時、僕は五厘刈という丸刈りの坊主頭で謝罪の意味を込めて散髪屋に行き今より短くしてくれと伝えましたら剃るしかないと言われ、スキンヘッドにしてみました。このスキンヘッドが女子に好かれ頭を触らせてくれと後輩の女生徒におねだりされ触らせておりました。

続いての趣味はスポーツ。小学生の低学年中学年時代は運動会の徒競走はドゲ(びり)争いでした。5年生の時から近所の友人とソフトボールをやり出し運動神経が新緑の若葉のように芽吹きだしまして、6年生では徒競走が一番ばかりでした。運動神経は親父に似たのでしょうか。母親は見目麗しき女性で、本人曰く大府の高峰秀子と言われておりました。しかし、運動は苦手で小さいころは母親似とっていたのですがソフトのお陰で本来の僕になってきました。中学の時からサッカーをやりだしまして頑張っていました。どれぐらい凄いかは、三河安城のロータリアン矢田くん聞いてもらえば話してくれると思います。彼はサッカー部ではなかったのですがたまたま僕らの試合を見てちょうどぼくが40mぐらいのロングシュートをきめたのを目撃していました。サッカー部のひとつ上にこれまた三河安城クラブの富田清治さんも居まして、僕がキーパーをやっているときにしっかりキャッチしているのに伏せている僕の頭を蹴ったことを覚えています。彼はあまりうまくはありませんでした。ただ怖い先輩なだけでした。中学には陸上部が無く市の大会は寄せ集めです。200m走に出て優勝は逃しましたが安城市で2位になりました。長距離も強く駅伝は安城市で優勝したこともあります。校内では三本の指に入っていました。高校時代は陸上部の長距離ランナーよりも早かったです。親父は予科練に入隊した時に短距離走で教官が足に自信のある者という問いかけに真っ先に手を挙げたそうです。碧海群一番と言っていました。結果は惨憺なるものだったそうで、世の中は広い、俺よりすごいやつがうようよいる。と言っていました。高校は刈谷高校に進学してサッカーをやりたかったのですが中部統一テスト7回のうち1回だけボーダーラインを下回っており担任教師に入試がこの一回だったらどうするんだと言われ、しぶしぶ西尾高校に進学しました。

西高には中学の先輩が複数いましたので合格発表の次の日から西高に練習に行っていて、碧南高校との練習試合にも3月に出させていただきました。もちろん一年生からレギュラーで冬の新人戦では、みごと西三河大会で優勝しました。

強豪の刈谷高校、城西高校を差し置いての優勝です。

最後に今でも月に数度やっております麻雀です。麻雀を初めてやったのは中学の時で同級生の家に遊びに行ったときです。2対2の合コンでそのもう一人の男子がメンバーの深津吉彦君であります。彼とは同じ町内会で保育園、小学校、中学校、高校まで同じで竹馬の友であります。ソフトボールチームの時、深津くんはピッチャーでした。大学に入るまでは麻雀は早く上がったもの勝ちと思ってやっておりましたが大学の先輩たちに教わり、麻雀は如何に振り込まず少ないチャンスをもにすかを教わりました。一番長く麻雀をしたのは5人2抜けで眠らずに60時間です。食事や銭湯は2抜けの間にしていました。60時間過ぎて終わったとたん後ろに倒れて眠りました。目が覚めると外の風景がほとんど変わっておらず、疲れ過ぎると眠れないのだと思ったのですが実は22時間ぶっ通しで泥のように寝ていたのです。青年会議所を卒業するとき後輩たちが願いを叶えてくれるといったので、僕は横にきれいなおねーさんをはべらして、にぎり寿司を食べビール酒を飲みながら麻雀をやりたいと言いましたら叶えてくれました。この頃やるのは、深津くん、杉山くん、寺田くん、それに石川会長ですが一番強いのは寺田君です。強いのと旨いのは麻雀では別で寺田くんは兎に角ドラが3枚以上有る時の上がる確率は5割をゆうに超えていると思います。運と言いましょうかツキと言いましょうか兎に角よく上がる。じゃ、旨いのは誰かと言いますと居ません。しいて言えば横山かな。ということでお後がよろしいよう